あとがき

嵐山は私が最も気に入っている水辺景観の一つである。川の流れと橋と周囲の山の調和がすばらしく、最も京都らしいところとして、よく外国のお客様を案内した。その上流に保津峡があることは子どもの頃から知っていたが、そのさらに上流をたどると日吉、京北、花背につながっているとは、京都に生まれ育ったにもかかわらず、あまり気づいていなかった。

その私に流域の意識を強く抱かせてくれたのは、2003年の世界水フォーラムであった。このフォーラムに先がけて、2001年に世界水フォーラム市民ネットワークが立ち上がり、その活動の一環として京都府から桂川の上下流交流事業を受託することになった。私は、そのとき、ネットワークの一員としての立場と、京都府のアドバイザーとしての立場の両方からこの事業に関わることになり、流域のあちこちを見てまわるとともに、多くの方々と交流の機会をもつことができた。

今回の執筆に当たっても、随分とその方々のお世話になった。記して謝意を表したい。

(社)日本水環境学会関西支部川部会／澤井　健二

参考文献

・高野澄(文)・橋本健次(写真)(2001)新撰 京の魅力 歴史の京 洛西を歩く, 126pp, 淡交社, 京都.
・高橋裕編(2009)川の百科事典, 810pp,丸善,東京.
・近畿農政局「21世紀に残したい近畿の農業利用施設」
http://www.kkr.mlit.go.jp/water/06/mizuwotorusisetsu.html

写真資料

・亀岡市観光協会
・社団法人京都市観光協会
・京都・花灯路推進協議会　http://www.hanatouro.jp/
・車折神社
・華厳寺(鈴虫寺)
・大本山天龍寺

既刊の紹介

みやびな川 編『白川』(2010)
歴史とロマンの川 編『瀬田川・宇治川』(2010)

〈企画編集〉(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(社)日本水環境学会関西支部川部会

〈協　力〉(社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川　里の川をめぐる
～ちょっと大人の散策ブック～〈歴史とロマンの川 編〉

保津川・桂川　(Hozugawa・Katsuragawa)

［発　行］平成23年1月
［発行者］財団法人　琵琶湖・淀川水質保全機構
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル13F)
TEL. 06(6920)3035　FAX. 06(6920)3036
〈ホームページ〉http://www.byq.or.jp

©BYQ, 2011 Printed in Japan

「　飲める水　遊べる水辺　次世代に　」

琵琶湖・淀川　里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～

歴史とロマンの川 編

保津川・桂川

(Hozugawa・Katsuragawa)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(社)日本水環境学会関西支部川部会

「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

（財）琵琶湖・淀川水質保全機構と（社）日本水環境学会関西支部川部会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、それぞれ5、6リーフレットからなる、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、本リーフレットでは「歴史とロマンの川」編として、京都府南丹市から亀岡市、京都市西部を経て乙訓地域に至る「桂川」の中・下流部を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

CONTENTS

ねらい・目次

桂川の概要 …… 02

桂川中流部（大堰川） …… 03

コラム１　桂川の水質 …… 04

保津峡の舟下り …… 05

コラム２　桂川の筏流し …… 06

嵯峨・嵐山の散策 …… 07

コラム３　みやびの拠点、嵐山 …… 10

桂川下流部 …… 11

乙訓・洛西の散策 …… 13

コラム４　桂川流域における市民ネットワーク活動 …… 14

（表紙写真／桂川左岸より見た渡月橋・嵐山）

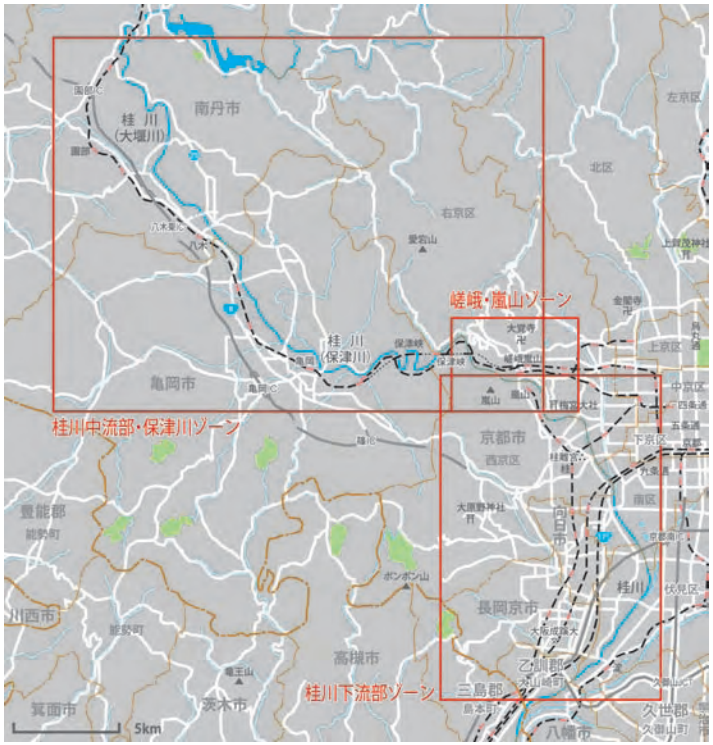
1 桂川の概要

桂川は宇治川、木津川とともに、淀川水系を構成する代表的な支流のひとつで、流域面積115㎢、幹線流路延長114kmの1級河川である。桂川の名の由来は、下流部の桂の里（旧地名では葛野（かどの）郡桂村）を通ることにより、古くは葛野川と呼ばれていた。

桂川（上・中流部は大堰川とも呼ばれる）には古くから筏流しがあり、上流部の京北から日吉、八木、亀岡を経て、京都の嵯峨嵐山まで、丹波材の出荷が盛んに行われた。園部から八木、亀岡にかけての中流部では、以前多くの農業用井堰があったが、現在そのいくつかは上桂川統合堰に統合されている。また、江戸時代中期に角倉了以によって亀岡から嵐山の間（この部分は保津川と呼ばれる）が開削されたことによって、舟運が一層盛んとなり、現在では保津川下りとして観光客を集めている。

保津峡出口に位置する嵐山は風光明媚で知られるとともに、多くの歴史遺産が集中している。

桂川下流部にも多くの井堰があり、両岸の田畑を潤してきたが、堰の落差のために魚類の遡上が妨げられ、その改良が望まれている。また、日吉ダムの建設によって洪水被害の頻度が減少したものの、なお、亀岡盆地や下流の京都市域においても氾濫の危険があり、引き堤等の治水事業が進行中である。



桂川流域図

2 桂川中流部（大堰川）

京都の中央部から桂川の中流部へ向かう道路としては、国道9号線が標準的であるが、現在、京都縦貫自動車道が建設され、沓掛から園部までわずか30分で行けるようになった。園部のインターから府道19号線、25号線を通り、八木町に入ったところに関西電力の**新庄発電所**がある。この発電所は、上流の**世木ダム**（1951年完成）から取水している出力7000kWの発電所である。そのすぐ下流で桂川中流部最大の支川である**園部川**が合流する。園部川の上流には、国の名勝地に指定されている**るり渓**がある。

園部から府道25号線を南へ行くと、再び桂川（大堰川）に出会うが、1935年当時の架設技術の粋を集めたトラス橋の**大堰橋**が架かり、そこに**大堰川緑地公園**がある。

大堰橋（八木大橋）

上桂川統合堰

アユモドキ（撮影：岩田明久）

穴太寺

出雲大神宮

真名井の水

稗田野神社

長寿の滝

南郷池

亀山城跡

そのすぐ下流、亀岡市に入ったところに**上桂川統合堰**がある。この堰は室町時代に設置された寅天堰をはじめとする7つの堰を1963年に統合して作られたものである。

亀岡市千代川の**月読橋**から東方に向かうと、徒然草にも記され、大国主命を祭った「元出雲」とよばれる**出雲大神宮**があり、そこに名水**「真名井の水」**が湧き出ている。また千代川から南に向かうと、西国21番札所の**穴太寺**がある。この寺には撫でてお願いをすると霊験があるといわれる布団を掛けた涅槃像がある。また「悪病退散・癌封治」で名高い**稗田野神社**には**長寿の滝**から御幸水が噴出している。

桂川の中流部には**アユモドキ**をはじめ、多様な生態系が残っており、その保全活動が注目されている。JR亀岡駅のすぐ南側に明智光秀が築城した**亀山城**の跡があり、外堀の**南郷池**から望む風景は旧城の面影を残している。

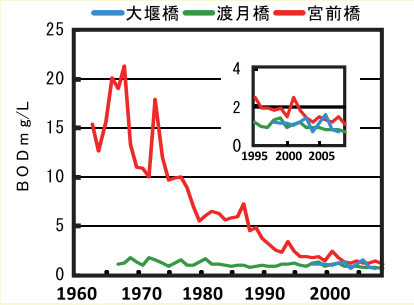
コラム 1　桂川の水質

図は、桂川中・下流部の３つの地点（大堰橋、渡月橋、宮前橋）でのBODの経年変化を示したものである。これによると、下流部（宮前橋）でのBODは1970年代には上・中流部に比べて著しく高かったが、その後の改善が著しく、最近では中流部の大堰橋とほぼ同じレベルになっている。一方、CODやT-N（総窒素）、T-P（総リン）は経年的に低下しているものの、まだかなり高い。

NO_3-N（硝酸態窒素）は横ばいか上昇傾向にあるが、これは、下水処理場での硝化（アンモニア態窒素から硝酸態窒素への変化）技術の適用結果と考えられる。

渡月橋においては、1970年代にはBODが若干上昇していたが、最近では1mg/Lを下回るようになっている。中流部の大堰橋と渡月橋のBODを比べると、渡月橋の方が値が低くなっているのは、清滝川など比較的きれいな支流の合流と、保津峡における自然浄化作用によるものと考えられる。

近年では、桂川においても、水質に加えて生態系の保全や親水性の創出など、川らしい川づくりへの要望が高まりつつある。



【 桂川中・下流部のBOD経年変化 】

3 保津峡の舟下り

JR山陰本線の亀岡駅をまっすぐ北に向かうと、**保津川下りの模型**が目に入る。ここを過ぎるとほどなく桂川の本川に出るが、そこに保津川下りの乗船場がある。「川下り」というのは、保津川の水流を利用して下流にある京都・大阪に物資を輸送する水運で始まった。この歴史は古く、平安京以前の長岡京に都があった頃から行なわれ、その後天龍寺をはじめ、大坂城、伏見城造営と、保津川の水運を利用して、筏によって遠く上流の丹波から木材などの資材が輸送された。

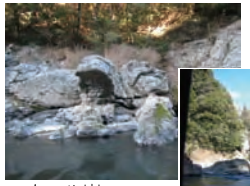
1606年（慶長11年）、川大名といわれた京都の豪商角倉了以によって水路が開かれてからは、木材・米・麦・薪炭などが高瀬舟で輸送されるようになった。丹波の豊富で質のよい木材・穀類・薪炭は、戦後の1948年頃まで水運によって京都に運ばれていたが、山陰線の開通（1899年）と戦後のトラック輸送の発達によって、筏と荷船による水運利用は次第に姿を消していった。

保津峡の自然美は四季を通じてすばらしく、巨岩をはじめ、周囲の山々と、しぶきをあげて落流する水、神秘をたたえた鏡のような渕など、変化に富んだ景観は、まさに人の目をとらえて離さない。そこで、1895年頃から、遊船として観光客を乗せた川下りが始まり、亀岡から嵯峨まで16kmに及ぶ保津川下りには、今や年間を通じて約30万人の観光客が訪れている。

亀岡盆地から保津峡にさしかかる手前に**内膳堤**の名残が見られる。内膳堤というのは、江戸時代の亀山藩の領主であった岡部内膳守長盛の名前に因んで名付けられたもので、上内膳と下内膳がある。その左上を見上げると保津川の氏神であり、火祭りで名高い**請田神社**が見える。

亀岡駅前の保津川下り模型

嵯峨野トロッコ列車


カエル岩

奇石

清滝川の合流点（落合）

大悲閣千光寺

角倉了以の座像

角倉了以の立像

保津川下りの中ほどで亀岡市から京都市に入るところで上空を見上げると、JR山陰線の保津峡駅が見える。ほどなく、左から**水尾川**が合流するが、その上流にはゆずの里水尾がある。トロッコ保津峡駅を過ぎてまもなく、落合で左から**清滝川**が合流する。このあたりの左手奥にそびえているのは、京都随一の標高924mを誇る**愛宕山**である。

保津川下りの終点は**嵐山**である。嵐山は桂川の右岸側にある標高382mの山の名前であるが、むしろその付近一帯をさす地名として知られている。嵐山に近づいてまず目に入るのは右岸側にある嵐山温泉の温泉宿とその船着き場である。

そのすぐ上方には、**大悲閣千光寺**がある。この寺は、角倉了以が保津川開削の犠牲者の菩提を弔うため創建したもので、晩年はここに隠棲していた。松尾芭蕉もこの寺を訪れ「花の山　二町のぼれば　大悲閣」と吟じてそこからの眺めを絶賛した。ここには**角倉了以の座像**が安置され、その対岸の亀山公園には**立像**がある。

保津川下りの所要時間は、水量にもよるが、およそ1時間40分である。

コラム ❷ 桂川の筏流し

桂川と言えば、筏を抜きには語れない。筏は元来、材木を効率よく下流に運搬するために、数本ずつ束ねたものをさらに数連つなぎ、その上に２～３人の筏師が乗って川を下るものである。桂川では、往時、上流の京北から下流の嵯峨まで、いくつかの区間に分けて筏が流され、丹波材が京都あるいは奈良、大阪へ供給された。

その歴史は白鳳時代（645～710）にまで遡る。平安京造営に際しては、山国庄が御料地に指定されている。中世には筏流しを専門とする筏士も登場し、大坂城や伏見城の築城に貢献するとともに、宇津・世木・田原・保津・山本の各村の筏士に豊臣秀吉から朱印状が付与されている。江戸時代には商品経済の発展とともに、山方・筏問屋・筏士との関係に対立も見られるようになった。明治から昭和にかけては、建設ラッシュに伴う材木輸送の発展が見られ、大正末期には年間3,000乗、約90万本もの材木が運ばれた。その後、山陰本線の開通、トラック輸送の発展によって、筏流しは減少し、1951年の世木ダムの完成をもって京北地域からの筏流しが途絶え、さらに1950年代後半に保津峡内での筏流しも途絶えた。

【 筏流し 】

4 嵯峨・嵐山の散策

嵐山の中心スポットは**渡月橋**である。渡月橋の南側の島は**中ノ島**と呼ばれ、その南にある**渡月小橋**を渡ると嵐山のふもとに**法輪寺**がある。

渡月橋の直下流右岸には、保津川下りの**船溜まり**があり、ここで陸揚げされた船はトラックで亀岡へ回送される。渡月橋の上流には**一の井堰**があり、その左岸から取水した水路が下流で**西高瀬川**となる。その取水口のたもとには、珍しい**小水力発電設備**が設置され、2005年12月、渡月橋がライトアップされた。

渡月橋の西北には**小督塚（こごうづか）**がある。高倉天皇の寵愛を受け、平清盛の怒りを避けて身を潜めた女房・小督の居所といわれている。その

法輪寺

一の井堰の遠景

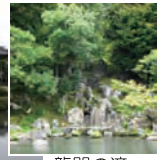
（左）西高瀬川の取水口・小水力発電設備

小督塚

頓宮と琴聴橋

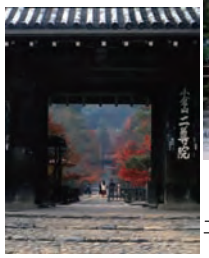
宝厳院前に並ぶ羅漢像

天龍寺（大方丈）

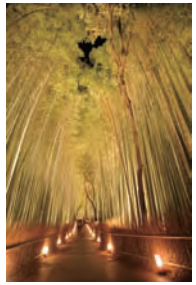

龍門の滝

曹源池庭園

愛の泉（霊泉）


二尊院

野宮神社



花灯路（京都・花灯路推進協議会提供）

すぐ近くに車折神社の**頓宮**（仮の宮）があり、その前に**琴聴橋**という小さな石橋が掛かっている。平家物語では高倉天皇の命を受け、小督の居所を探していた源仲国が小督の奏でる琴の音をここで聴き、探し当てたとされている。

その北側一帯は**天龍寺**の境内である。天龍寺は足利尊氏が開基（建立）し、開山（初代住職）は夢窓疎石（国師号を授かる）である。また、京都五山の第一位とされ、世界遺産にも登録されている。境内には**選佛場（法堂）**や**大方丈（庫裏）**、**書院**がある。また、庫裏の横手からは夢窓国師が作庭の**曹源池庭園**があり、中央に**龍門の滝**（枯れ滝）がある。平和観音像のわきには**愛の泉（霊泉）**が出ている。近くには前に多くの羅漢像が並ぶ**宝厳院**もある。

天龍寺の北側には**野宮神社**がある。野宮神社は伊勢の神宮に奉仕する内親王が潔斎（心身を清める）のために居住された跡で、源氏物語にも現れ、黒木の鳥居や小柴垣等昔のままの遺風を伝えている。

嵐山一帯の寺院・神社や小径などでは、12月中旬の10日間、夜には花灯路が展開され多くの人々で賑わっている。

西北にある丸い山は**小倉山**で、そのふもとに百人一首の編纂や**柳の水**で知られる**二尊院**がある。二尊院の名は、向かって右に発遣（ほっけん：現世から来世へと送り出す）の釈迦如来、左に来迎（西方極楽浄土へ迎え入る）の阿弥陀如来の二如来像による。その前には元禄の俳人で芭蕉の門人の向井去来の遺跡で、**西行水**のある**落柿舎**や仏の理想世界「常寂光土」から名付けられ、嵯峨野随一の紅葉の名所**常寂光寺**がある。

そこから北に500mほどたどると、滝口寺と祇王寺を経て、千灯供養で有名な**化野（あだしの）念仏寺**、さらに500m奥には境内に多くの羅漢石像のある**愛宕（おたぎ）念仏寺**がある。嵯峨鳥居本の現在の町並みは愛宕神社の門前町として開けたもので、8月16日の夜には、五山の送り火のひとつとして、**曼陀羅山**の中腹に鳥居形の灯がともる。

ここから約700m南東には**清涼寺（嵯峨釈迦堂）**がある。清涼寺は、光源氏のモデルとされる嵯峨天皇の皇子・源融（みなもととおる）の山荘内に唐から持ち帰った「釈迦如来像」を安置したのが始まりとされている。寺のすぐ横に嵯峨豆腐で有名な店もある。

その約500m北東には旧嵯峨御所で心経の本山・写経の道場として親しまれている**大覚寺**がある。**大沢池**は大覚寺の東にある広大な溜池である。平安期に営まれた嵯峨天皇の離宮造営にあたって唐の洞庭湖を模して作られ、「庭湖」とも呼ばれる。平安時代から興福寺（奈良）の猿沢池、石山寺（大津）とともに日本三大名月観賞地として有名である。大沢池には昔、月の出の方向である南東の丘陵斜面にダムを築き、北側の**名古曽滝**の水が林泉を経て導かれたが、後に滝は涸れ、現在は**有栖川**から取水している。

大覚寺の西側の道を北へ約1km行くと、**直指庵**がある。現代の駆け込み寺といわれ、女性たちが心の内を書き残したノート「想い出草」は今日では5,000冊以上に上っている。

大沢池からさらに東方約700mのところには**広沢池**があり、そこから南に約1kmのところに**車折（くるまざき）神社**がある。社名の由来は、後嵯峨天皇が嵐山の大堰川に御遊幸の砌（みぎり）、牛車が

常寂光寺

落柿舎

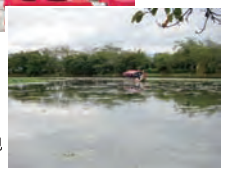
西行井

化野念仏寺

愛宕念仏寺

清涼寺

大覚寺


大沢池

社前で石に当たって動かなくなり、勢いよく引いたところ、引き棒が折れたことによる。いくつかの鳥居を横目に本殿前へ出ると、大小の奉納石が積み上げられている。これは、祈念神石といい社務所にて授かり、神前で願い事を心中にて強く念じ、願い事が叶えば、自宅や海・川・山などで石を拾い、洗い清め、お礼の言葉を記して、返納する習わしによるものである。

境内末社の**芸能神社**は、芸能人の信仰も厚く、周りの朱色の玉垣には芸能人の名前が連なっている。また**水神社**が1473年（文明5年）よりこの境内に祀られている。これは、このあたりから松尾にかけての桂川左岸堤が**釋原（ふしはら）堤**と呼ばれ、暴れ川であった大堰川をこの里に住んでいた秦氏がこの川の周辺に神々を祀って治水を祈ったことによっている。桂川が大堰川と呼ばれるようになったのは、5世紀後半に秦氏がこの付近に大きな堰を築いたことによる。

直指庵

広沢池

車折神社（本殿）

芸能神社

水神社

コラム ③　みやびの拠点、嵐山

嵐山といえば、渡月橋。この渡月橋の直上流には近畿地方で最も美しい頭首工（取水工）と呼ばれる「一の井堰」があり、その付近の景観は世界中から訪れる観光客にうるおいと安らぎを提供している。その上流の静かな水面には、お座敷船が行き交うが、夏には鵜飼も行われている。

三船祭は５月14日の車折神社例祭の延長神事（行事）として昭和御大典を記念して1928年（昭和３年）より始められた祭りで、毎年５月第３日曜日に嵐山の大堰川において、御座船・龍頭船・鷁首（げきす）船など20数隻を浮かべて、御祭神である清原頼業公が活躍された平安時代の船遊びを再現する。三船祭の拝観者は約10万人に及ぶ。

嵐山周辺には有名寺院が目白押しに並ぶ。渡月橋南側にある法輪寺は十三参りで有名である。法輪寺の十三参りでは、数え年十三になった子に、虚空像菩薩から智恵が授けられる儀式を行うが、帰りの渡月橋の途中で振り返ると授かった智恵をすべて失うとの逸話がある。

【 三船祭 】

5 桂川下流部

嵐山から左岸を下ると梅津に至る。桂川の水運は嵐山や梅津を荷揚場とし、西高瀬川を水路として丹波以北からの品物を京都中に運んだ。梅津には古くから安産と酒造で有名な**梅宮大社**がある。境内には夫婦でこれをまたぐと子宝に恵まれるという**またげ石**がある。

梅津の対岸（西側）には**松尾大社**がある。松尾大社は賀茂神社と並び京都最古の神社といわれ、醸造の神様として、全国の酒造家などから信仰を集めている。これは、733年に社殿背後より泉（**亀の井**）が湧き出たとき、『この水で酒を醸すとき福が招来し家業繁栄する』との松尾の神の御宣託があったことに由来しているという。また境内には**霊亀の滝**もある。

穢（けがれ）を除くという**解穢（かいわい）の水**や、神功（じんぐう）皇后がこの石で腹を撫でて安産したと言われる「**月延の石**」で知られる**月読神社**は松尾大社の境外摂社である。

松尾大社の約1km南方には、**華厳寺（鈴虫寺）**と**西芳寺（苔寺**、要拝観予約）、池大雅美術館が並んでいる。鈴虫寺は四季を通じて鈴虫の音色を聞くことができることからそう呼ばれており、ここにはひとつだけ願いを叶えに来てくださるわらじを履いた「**幸福地蔵**」様がある。

梅宮大社

またげ石

松尾大社

亀の井

霊亀の滝

月読神社

解穢の水

松尾橋から約1.5km下流には国道9号線の西大橋がかかり、この右岸一帯は桂川の名の由来である桂地区である。**桂離宮**（宮内庁に要参観申込）は約7haの離宮で、江戸時代初期の造営当初の庭園と建築物を遺しており、当時の王朝文化の粋を今に伝えている。回遊式の庭園は日本庭園の傑作とされる。周りには生きた竹を寄せて編んだ**桂垣**（笹垣）が桂川の堤防に面して設置されている。これは、桂川の氾濫に対して流勢を緩和し、庭園への土砂流入を防止する機能を持っている。そのすぐ前には**徳大寺樋門遺構**がある。

桂川をさらに下って行くと、左岸側に**鳥羽水環境保全センター**（下水処理場）がある。この施設は京都市最大の規模であり、全国でも有数の処理能力を有し、高度処理の導入にも努めている。春には120mの藤棚の回廊とともに施設の一般公開を行っている。

この下流、**羽束師（はづかし）橋**の手前で、**鴨川**が桂川に合流する。羽束師橋の左岸側は横大路草津町と呼ばれ、以前**草津湊**があった。草津湊は江戸時代、京に舟運で運ばれる物資の荷揚げや旅人で賑わった。橋のたもとには**魚市場遺跡碑文**がある。2010年、横大路桂川・草津みなとフェスティバル（草津みなと鱧海道祭り）が開催され、こま札が立てられた。

桂川をさらに下ると、京都競馬場があることで有名な納所・淀地区である。京阪電車淀駅のすぐ横に**淀城跡**がある。**與杼（よど）神社**は淀の産土神で、淀神社と記されることがあるが、正しくは與杼神社（与杼神社）である。**淀川瀬水車旧址**や**唐人雁木跡**、**淀小橋旧跡**など史跡も数多い。

苔寺

鈴虫寺

幸福地蔵

桂垣

徳大寺樋門の遺構

魚市場遺跡碑文

淀城跡

與杼神社

6 乙訓・洛西の散策

宮前橋を西に渡ると、すぐ左手に洛西浄化センターがある。まもなく長岡京市に入り、小畑川に出会う。小畑川は京都市と亀岡市との境である老の坂に源を発し、京都市洛西地区、長岡京市を貫流して大山崎町で桂川に流出する。この流域では260haに及ぶ洛西ニュータウンが開発され、竹林のかなりの面積が市街化された。この建設に先立って小畑川が改修され、人工河川化が進んだが、一方で親水整備もなされている。

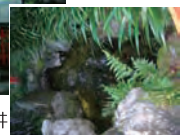
洛西ニュータウンの西方、小塩山のふもとにある大原野地区には西行法師が植えたといわれる「西行桜」があることから花の寺で知られる勝持寺や猿沢池をまねた鯉沢の池、清和天皇産湯の清水（瀬和井）のある大原野神社がある。

高槻市との境にあるポンポン山に源を発する善峰川の源流付近には、西国三十三箇所第二十番札所の善峰寺と三鈷寺がある。善峰寺には五葉松が40m以上横に這う「遊龍の松」、「御香水」や「白山名水」の名水がある。三鈷寺は遠く京都市街地が一望でき、東山に名月が昇る様は絶景といわれる。その麓には、在原業平が隠棲したという通称なりひら寺で知られる十輪寺がある。

向日市役所のすぐ南には長岡宮跡がある。向日市と長岡京市の市境、西国街道が小畑川を渡る地点に、一文橋という面白い名前の橋が架かっている。小畑川洪水により何度も橋が流されたため、通行人から一文ずつ徴収して橋の架け替えの費用に充てたという伝承がある。

勝持寺

大原野神社


瀬和井

善峰寺

三鈷寺

十輪寺

長岡宮跡

一文橋

乙訓寺

長岡天満宮

楊谷寺

独鈷水

海印寺寂照院

小泉川最下流落差工

長岡京市の北端にはボタンの花で知られる乙訓寺があり、長岡京市役所のすぐ西には長岡天満宮がある。ここは、菅原道真が太宰府へ左遷された時立ち寄り、自作の木像を祀ったのが始まりとされる。境内の東にある八条ケ池は灌漑用のため池で、周囲1km、貯水量35,000㎥にも及ぶ。

長岡京市には、小畑川のほかに小泉川が流れ、その源流部、浄土谷には眼病平癒の謂れで知られる独鈷水（おこうずい）がある楊谷（ようこく）寺がある。小泉川の中流部には海印寺寂照院がある。海印寺はモウソウチクが初めて伝わったところとも言われている。この付近ではゲンジボタルが、育てる会によって保護育成が図られている。

また、小泉川には多くの落差工があるが、魚道の設置に種々の工夫がなされている。特に最下流の落差工では、魚の遡上が観られる観察窓を備えた魚道が設置された。

コラム 4 桂川流域における市民ネットワーク活動

近年、全国的に環境保全にかかわる市民ネットワーク活動が活発に行われている。桂川流域では、2003年の第3回世界水フォーラムを機に、市民ネットワーク活動が盛んになった。その中で流域全体に及ぶ代表的なものとして、桂川流域ネットワークがある。桂川流域ネットワークの流域見聞シリーズは中でも注目に値する。

その中から派生的に生まれ、今では独立した継続活動となっているものに、天若湖アートプロジェクトがある。これは、日吉ダムの建設にともなって水没した集落の各戸の上の水面上に灯りをともし、往時をしのぶとともに、新しい湖面利用、芸術活動、流域連携、地域活性化などを図ろうというもので、毎年8月上旬の土・日曜日に開催されている。

亀岡を中心に立ち上がったプロジェクト保津川は、筏文化の復活に積極的に取り組み、京筏組を組織するまでになっている。

下流域では、桂川愛護会などが河川レンジャーと連携して、桂川一斉清掃作戦に取り組むとともに、生態系の保全や子供たちの環境教育に熱心に取り組んでいる。

【 草津みなと鱧海道祭り 】